

## ことのはじまり 電光石火の産声ーオープンダイアログネット

大熊由紀子

福祉と医療・現場と政策をつなぐネットワーク・志の縁結び係&小間使い  
国際医療福祉大学大学院・医療福祉ジャーナリズム分野

ケルケゴールに惚れ込んでデンマークに渡り、デンマークの福祉現場と思想を日本に紹介してきた片岡豊さんから、長いメールがとどいたのが、ことのはじまりでした。

2015年1月14日の未明3時30分のことでした。抜粋します。

「僕はここ2年ほど、ノルウェーの精神科医のトム・アンデルセンさんが提唱したリフレクティング・プロセス、その彼と一緒に開発されてきたフィンランドのオープンダイアログ(OD)の関係者と接触し、発祥地であるフィンランドのTornioという田舎町にある地域精神医療を見学させてもらいました。

当事者の人権と自己資源を尊重し、当事者を取り囲む人脈と連携しつつ、対話を通して回復の支援をする、とても素晴らしい精神治療の考え方で、30年近くの経験をもち、Tornioでは80%以上のリカバリーの実績を上げています。北欧諸国や東欧諸国、そしてイギリス、アメリカなどにも広がりがつあります。

最近、精神科医の斎藤環さんという方が、ODをドキュメンタリー動画も使って紹介をされていると聞きました。ただ、まだ、現地の関係者と直接、接触しておられないようです。ODの情報を広く日本に紹介できればと願っています。

斎藤環さんたちと連携がとれれば、日本を変えていく展開につながってくるのではと思います。大熊一夫さんが、イタリアの動きを積極的に紹介されていますが、ODとは矛盾するものでも、対抗するものでもなく、逆に、イタリアの地域精神医療の具体的な展開方法のひとつとしてODがあると思います。もし可能であれば、一度、ゆきこさんにODの現状を見ていただきたいと思います。 ゆたか」

4時間後、私はこう、返事していました。

「オープンダイアログは医学書院の月刊誌「精神医療」に半年前に特集され一部では興味をもたれています。白石正明さんというカリスマ編集者がいて、斎藤環さんを一昨年「べてる」に連れてこられました。そんなわけで、私、べてるの向谷地生良さん、白石さん、斎藤さんとすぐに『縁結び』できます」

そして1月20日未明2時、片岡さんから思いがけないメールがとびこんできました。

「偶然にもフィンランドのOD中核人物の一人、Kari Valtanenさんから、3月下旬から4月上旬にかけて観光で訪日すると連絡がありました。その際に日本のOD関係者と今後の展開などについて情報交換をすることはできるということです」

ただ、「フィンランド人は一般的に英語が苦手で、Kariさんもその典型的タイプです」とありました。講演や情報交換の成否は通訳次第です。

幸い、パートナーがフィンランド人である吉備国際大学大学院の高橋睦子教授と、日本語が堪能で福祉の世界に造詣の深い橋本ライヤさん——私と旧知のこのお2人が、意気を感じて通訳を引き受けてくださいました。

こうして電光石火、2015年3月30日、東大駒場で、オープンダイアログ・ネットワークが産声をあげることになりました。

片岡さんのメールから、わずか2カ月半後のことでした。